

# 国産材

## 素材生産現場に行く

124

（上市）へ集成材用ラミナの供給を開始したところがある。それまでも搬出した原木は共販所



高性能機械の導入で効率の良い全量出荷が可能に

能林業機械と、同じくトーセンタは12年度に導入され、ス発電所への燃料用丸若い人材を中心に積極的な活用が進み徐々に稼働率が上がったこと、木材生産量は12年度産量がさらに増加し、12年度には1人当たり1日3立方材の搬出が掛かり作業効率が落ちるケース

### 温海町森組

温海町森林組合（山形県鶴岡市、大井喜助組合長）の2015年度の素材生産量は2万1500立方材で、10年度の5000立方材から5年間で4倍に急増し、山形県内でトップの事業体へと急成長を遂げた。13人の現場作業員は30代6人、20代4人、40代1人、60代2人と若い人材が多く活気がある。これまで緑の雇用事業を通じて採用された6人の作業員は全員定着し、今年も新たに20代が1人入ってきた。まさに地方創生の姿そのものといえる同組合では、今年新たに「カブ栽培で皆伐促進」という全国でも珍しい試みに挑戦する。

同組合の素材生産が 県矢板市、東京清寿社急拡大した背景には、（長）グループの羽越木10年にトーセン（栃木 材協同組合（新潟県村

## 素材生産5年で4倍に

### 皆伐促進の秘策はカブ栽培!?

や市場、地域の製材工場で、素材生産体制は一だた素材生産量が、もめるが、同組合では場等へ販売してきたが、その需要は不安定で量も伸び悩んでいた。ところが、常に一定量を購入する安定した販売先ができたこと

と、1班ごとにプロセッサとフォワーダ、生産の増加につなげた。この高性さらには3年末になる面積は1万6200



20、30代の若手が高性能機械を積極的に活用している

の林地で育て、その販売収入で再び造林費用を賄うという方法を考えた。森所有者と10年間の受託契約を結び、皆伐後、カブを育て、得た収入と補助金で再植林の継承の面でも期待さ